

学 位 論 文 要 旨

氏 名 加藤 由美

題 目 若手保育者の困難感と対処に着目した心理教育的介入に関する研究

学位論文要旨（和文2,000字又は英文1,000語程度）

本研究の目的は、様々な困難感を抱えやすい若手保育者を対象とし、その職務上の困難感の要因を抽出し、それに基づいて若手保育者のメンタルヘルス対策に貢献するための心理教育的プログラムを作成し、実施し、および評価することである。そこで以下のとおり研究を実施した。

### 第1章 若手保育者の抱える困難感に関する先行研究の概観

若手保育者を含む保育者の困難感やストレス、メンタルヘルス等に関して、国内外の先行研究を概観し、その動向を把握するとともに、学校教員を対象とした研究も参考としながら、困難感やストレスへの対処法やメンタルヘルスを保持・増進させるための方法を探った。保育者の困難感に関する要因となるのは、主として勤務環境、保育技能、職場の人間関係であり、困難感への対処法として、勤務環境の整備、職員同士の保育観の共有、保育者効力感や対人関係スキルの向上等が指摘されていた。

### 第2章 若手保育者の抱える困難感に関する質的研究

若手保育者の具体的な困難感の内容を明らかにするために、若手保育者16名へのインタビュー調査を実施し、保育経験者6名の語りを参考として分析した。その結果、若手保育者の困難感の主として「保育者としての未熟さ」、「仕事の大変さ」、「人間関係の困難感」の3カテゴリーにまとめられ、これらは相互に関連し合っていた。また、語りのエピソードから職場の人間関係の重要性が示唆された。そのような職場の人間関係の困難感についての具体的な内容を把握するために質問紙調査を実施し、保育者112名の自由記述内容を分析した。その結果「保護者対応の困難感」と「職員間の連携の困難感」という2つのコアカテゴリーが生成され、若手保育者、中堅・ベテラン保育者ともに、職員間の連携、特に保育観や保育方法の相違による困難感を抱えていることが窺えた。

### **第3章 若手保育者の抱える困難感とそれに関連する心理社会的要因に関する量的研究**

若手保育者の職務上の困難感の特徴や保育者のメンタルヘルスの指標の一つである抑うつ度と保育者の職務上の困難感、個人要因、性格特性、対処スキル等がどのように関連しているのかを明らかにするため、保育者374名の質問紙調査の結果を分析した。まず、職務上の困難感に関する因子分析の結果、「仕事の大変さ」、「保育技術の未熟さ」、「人間関係の困難感」、「職場環境への不満」、「ネガティブな職場の雰囲気」の5因子が抽出された。若手保育者は中堅・ベテラン保育者と比較して有意に「保育技術の未熟さ」を感じていた。そして重回帰分析およびパス解析の結果、保育者の抑うつに関連しているのは「ネガティブな職場の雰囲気」や「職場環境への不満」、「人間関係の困難感」といった主に職場内の人間関係に関わる内容であることが明らかとなった。また、首尾一貫感覚や楽観的であること、問題回避等が保育者の抑うつに関連していた。先行研究と同様に、職場の人的環境を良好に保つこと、楽観的であること、問題に向き合う姿勢等が保育者のメンタルヘルスを保持する上で重要であることが示唆された。

### **第4章 心理教育“サクセスフル・セルフ”若手保育者版の作成と評価**

若手保育者の心理社会的ストレスを予防するための心理教育プログラムを新たに作成、実施し、その評価を行った。心理社会的ストレスの予防が報告されている安藤（2012）の実践を基盤とし、第1～3章の結果を踏まえ、心理教育“サクセスフル・セルフ”若手保育者版を作成し、以下①～③の対象者の順に研修会にて実施した（①若手保育士63名 ②若手・中堅ベテラン幼稚園教諭 75名、③若手・中堅ベテラン幼稚園教諭・保育士14名）。プログラム内容の理解、分かりやすさ、役立ち感、意見・感想等に関して質問紙調査を実施したところ、①～③ともに参加者の肯定的な評価が多く、保育者の経験年数や園の種別に関わらず、プログラムは全ての保育者が共有できる内容であると推察された。③では参加者に「困難に打ち勝つ自己効力感」等の心理社会的要因に肯定的な変化が見られる可能性が示唆された。しかし、グループ編成の内容や方法、参加者の意見の取り上げ方等に関して改善点を指摘する意見もあったため、今後それらの点に関する十分な検討と配慮を要する。

### **第5章 本研究の総括**

一連の研究結果について総合的考察を行った。本研究におけるインタビューおよび質問紙調査、心理教育プログラムの実践においては、限られた地域における一部の保育者を対象としているため、研究結果を一般化するには限界がある。今後は特に、心理教育プログラム実施における改善点や課題を踏まえ、研修方法のあり方も考えながら、若手保育者のメンタルヘルス対策の構築に向けて取り組んでいく必要がある。